

第40回日本重症心身障害学会 学術集会を終えて

院長 宮野前 健



平成 26 年 9 月 26 日、27 日の二日間、京都テルサにて第 40 回日本重症心身障害学会の学術集会を開催いたしました。学会のテーマを「見つめ直そう重症心身障害医療・福祉の原点」として、特別講演2つ、シンポジウム 4 課題に教育講演を 1 つ加え少し欲張ったプログラムになりました。

重症心身障害児（者）を支えている医療の各分野を始め、福祉や教育関係者など約 1,200 名の参加があり、一般演題は口演とポスターを合わせて 256 演題が発表されました。一般医療の延長線上ではなかなか対応の困難な医療・看護の課題、療育・日中活動や在宅支援、地域連携など幅広い分野について日頃の成果を発表し、活発な議論や情報交換が行われました。他の医療分野とは異なり、多職種の専門家が垣根を越えて一同に会して、議論する学祭的・集学的な学術集会と成っています。

特別講演の一つは昭和 30 年代「この子らを世の光に」を理念に設立された、重症心身障害児施設びわこ学園の前院長の高谷清先生による「重い障害のある人の生きる喜びと“生命倫理”」でした。重症心身障害児者への医療や福祉への深い思いと、現代社会が抱えはじめている障害を持つ人たちの権利や生活を阻害する動向に対して鋭い批判を展開されました。また教育講演では、臨床現場での御縁から京都大学 iPS 細胞研究所・増殖分化機構研究部門 井上治久教授（神経内科）にお願いしました。「iPS 細胞を用いた疾患研究-神経変性

疾患を中心に-」と題して、神経変性疾患から樹立した iPS 細胞を活用した“創薬”について現代医学の最前線のトピックスを大変判りやすくお話ししました。

この学術集会では恒例になったファッションショーが、学会初日の発表終了後にメイン会場のテルサホールで開かれました。療育指導室スタッフが企画・演出して“しらうめ”病棟で療養生活を送っている利用者 3 名の方が、モデルとして参加しました。どのような舞台になるのかぶっつけ本番で学会を通じて一番緊張した場面でしたが、病棟とはまた違う笑顔と衣装で登場し会場から大きな拍手を頂きました。小さな施設で学会を運営する事は様々な困難が有りましたが、学会準備段階から当日 2 日間多くの病院スタッフが一致協力して充実した学会運営が出来たことを誇りに思っています。

当院は肺がんを含む呼吸器疾患、神経難病と小児慢性疾患・障害児医療を専門に掲げた病院です。障害児医療の中でも重度な身体障害と知的障害を併せ持つ重症心身障害児（者）の入所事業（医療型の療養介護事業）とレスパイト・短期入所など在宅支援に積極的に取り組んでいます。また来年度から在宅重症児（者）の為の通所事業に向けて準備しています。当院の専門的な機能を地域と連携しながら更に伸ばしていきたいと考えています。今後ともご理解ご支援をお願い申し上げます。

ファッションショー『夢咲く・花咲く・笑顔咲く』 ～夢がかなった瞬間～

療育指導室 主任保育士 下司 洋子

京都テルサで開催されました「日本重症心身障害学会」において、ファッションショー『夢咲く・花咲く・笑顔咲く』を開催いたしました。

重度の障害があっても、好みに合ったファッションを機能的に着こなす『夢かなえる装い』をテーマとし、被服デザインを日本女子大学 家政学部被服学科 多屋 淑子 教授にお願いをいたしました。モデルは南京都病院 重症心身障害児（者）病棟に入所されている3名の方にお願いをし、多屋教授により、それぞれのイメージと夢を衣装に表現していただきました。



一人目のモデルは、おしゃれに興味がありファッション雑誌を見るのが大好きな女性です。ワンピースにベレー帽姿、ウォーカーに乗り、主治医のエスコートでにこやかに登場しました。「ファッション雑誌から飛び出した自分」のファッションがスクリーンに映し出されると会場から大きな拍手を頂き、モデル気分を満喫したと思えるほど堂々とした表情と動きでした。

二人目のモデルは
車いすの自走が可能

で、理想の男性とデートをしてみたい夢がある女性です。レースの襟付きブラウスとスカート、ベレー帽姿、看護師のエスコートで登場しました。ステージでは理想の男性からデートのお誘い、花束を受けとり夢がかなった瞬間が見られました。ほのほのした二人の姿に声援と拍手がわきました。理想の男性役は作業療法士です。



三人目のモデルは、音楽が大好きで聴いた曲は即、演奏できる才能のある女性です。ロングドレスに音符のネックレスを身に着け、療養介助員のエスコートで登場しました。「バラが咲いた」の曲をキーボードで演奏してくれました。一瞬でしたがステージと会場が一体となり、音楽会の気分が感じられました。会場から盛大な拍手に励まされ、満足そうな表情をされていました。

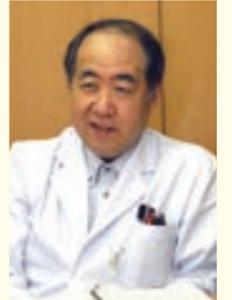
3人のモデルさん達は、大きなステージのスポットライトの中で、喜びを表情、拍手、しぐさなどで表現されていました。まさに～夢がかなった瞬間～となりました。

当院は、これからも医療、福祉の観点を重視し、皆さんの輝く笑顔、潤いのある豊かな生活が送れるよう病棟職員が一丸となり支援していきたいと思っております。このような機会を与えていただいた皆様に感謝いたします。



『医療相談室』～症状から読み解く家族の健康～

『パーキンソン病』 南京都病院 神経内科 岡 伸幸 診療部長



Q パーキンソン病とは。

A 詳しい原因は解明されていませんが、中脳の黒質という部分の神経細胞が減少し、その神経細胞が生成する神経伝達物質ドパミンが減るために発症するとされています。手足が震える、動きが遅くなる、筋肉が固くなるといった運動症状や便秘やうつ、睡眠障害といった非運動症状を生じます。発症のピークは50～60代ですが、20代で発症することも有り、日本では人口10万人あたり150人ほどが発症しているとされています。

Q 診断と治療は。

A パーキンソン病に似た症状を呈する別の病気と確実に区別することが重要です。常用薬や既往歴の聴取を行い、神経症状の程度を確認し、MRIによる画像診断から他の病気を原因としていないか判別します。なお、今年度より脳内のドパミン神経を直接イメージできるダットスキャンというRI検査が導入されており、ドパミン神経の脱落の程度を確実に診断できるようになりました。基本は薬物治療です。中心になるのはドパミンの前駆物質レボドパ(L-ドパ)で、脳内で減少したドパミンを補充します。しかし、長期使用によって効果が減弱したり、自分の意志とは無関係に口元が動いたり体がくねる不随意運動(ジスキネジア)が生じることがあります。こうした副作用を抑えるために、ドパミンアゴニストという薬も開発されており、必要に応じてレボドパより先に処方します。その他、近年は新薬の開発により、治療環境は著しく改善しています。気になる点があれば専門の医師に受診してみましょう。

新規検査(ダットスキャン検査)のご紹介

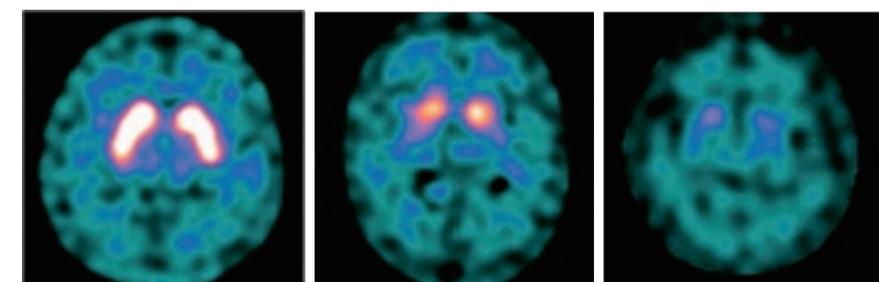
放射線科 副診療放射線技師長 宇谷 博文

このたび南京都病院では、新規診断薬を用いたダットスキャン検査(核医学検査)を開始いたしました。ダットスキャン検査はレビー小体型認知症、パーキンソン病 および関連疾患の早期診断に有用で、以前から当院で行われている脳血流シンチ、心筋MIBGシンチ、頭部MRIによるVSRADなどと組み合わせることにより認知症の診断精度が高まります。

当院では最新の核医学検査装置を昨年導入し、統計画像処理を加えた画像診断所見を提供しています。また最新の1.5T MRIも昨年より稼働しており当院に検査依頼をしていただければ、パーキンソン症候群関連疾患および認知症に対する多くの画像診断検査が可能です。2014年9月4日、厚労省の薬食審医薬品第一部会にてアリセプトの「レビー小体型認知症における認知症症状の進行抑制」の効能・効果に関して追加が了承されました。

ダットスキャンを含めた画像診断は認知症の治療方法や薬剤処方を選択に有効であると考えられています。この機会に認知症および関連疾患の治療をされている施設では画像診断の方法でも評価されてはいかがでしょうか。南京都病院 地域連携室 または 放射線科 にお問い合わせいただけますと詳しい説明が可能です。

ダットスキャン検査画像



正常例

パーキンソン症候群

レビー小体型認知症

地域医療に力を傾けておられるみなさまをご紹介します

地域の皆様に信頼される医療を目指して

山田医院

整形外科・
消化器外科

院長 山田 栄治 先生

平成26年3月より、京田辺市の川浪整形外科医院を山田医院として継承開業しております。私は、平成10年に北大卒業後、京大外科に入局し外科医として修練いたしました。その後一時、京大大学院に帰学し、基礎および臨床研究に従事しました。大学院修了後に赴任したNTT西日本京都病院では、上部・下部消化管の消化管内視鏡検査を修練し、その後医局を離れ、地方の病院で、外傷・骨折をはじめとした整形外科・救急医療や高齢者に対して認知症・骨粗鬆症などの地域医療に従事しておりました。これまでの経験を活かし、今年の3月から京田辺市に川浪先生の後を継承し、山田医院として開業しております。整形外科をはじめ、消化器系疾患をふくめ、幅広く地域のかかりつけ医としてプライマリーケアのできる医院を目標としております。



■ 京田辺市河原神谷11-8
■ TEL 0774-63-0315
■ FAX 0774-63-1265

診察時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~11:30	○	○	○	○	○	○	×
午後 5:00~7:30	○	○	○	×	○	×	×

■ 休診日 日・祝、木・土の午後



日ごろから南京都病院の先生方には、大変お世話になっております。特に整形外科患者様が多いため、毎日のようにMRI検査をお世話になり、放射線科の先生方の読影所見には、細かな指摘もあり色々勉強させて頂いております。また高齢者や癌末期の方の訪問診療では、南京都訪問看護ステーションの看護師の方々にも、大変お世話になっております。当院から訪問看護を依頼させていただいたり、逆に訪問診療を依頼させていただいたりと病診連携をさせて頂いております。24時間体制で訪問してもらえらるため、患者様にも大変評判がよく感謝されております。今後とも病診連携を大切にしていきたいと考えておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。今後も患者様から信頼されるような医院づくりを心掛けて参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

人と人の絆、心と心をつなぐお手伝いをいたします

訪問看護ステーション 絆(きずな) 訪問看護



初めまして。私たちは、平成23年6月に宇治市の木幡に「訪問看護ステーション絆」を開業しました。「訪問看護ステーション絆」設立の3か月前、平成23年3月11日は東北大震災がありました。震災の前より訪問看護ステーションの設立準備や、「絆」という名前も考えていたのですが、東北大震災がありより「絆」という言葉の重みや想いを強く感じました。この初心の気持ちを忘れることなく活動しています。

現在5名の看護師で宇治市を中心に伏見区醍醐、桃山、向島を訪問しています。利用者は70名前後で20歳代から101歳まで、脳血管疾患、神経難病、精神疾患、認知症、癌の末期の方など様々な疾患の方の訪問看護をさせていただいています。どんな疾患、状態の方であってもその方が住み慣れた自宅で過ごしたいという思いをもってられるなら、その想いに寄り添う看護、あきらめない看護・支援を目指しています。訪問看護は、医療保険と介護保険の2つの制度にまたがっている為、料金体系など制度が微妙に違うなど一般の人にはわかりにくいサービスになっています。訪問看護を1人でも多くの方に知って頂き、地域の中にある訪問看護ステーションとして多くの方と絆を結んで歩んでいけたらと思っています。人と人の絆、心と心をつなぐお手伝いが出来たらと日々スタッフ一同頑張っています。又、皆様の身近な存在として、気軽に立ち寄り頂ける、そんな訪問看護ステーションを目指したいと考えています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

■ 宇治市木幡西浦34番地4
■ TEL 0774-66-1795
■ FAX 0774-66-1796
■ 営業日・営業時間
月～金 午前9:00～午後5:00
※24時間の緊急対応可能
■ <http://kizuna-nurse.com/>



マレーシア医師研修について

呼吸器科 角 謙介

8月上旬にマレーシア政府の派遣で、ヌーハヤ・モハマド・ラザリ先生（マレーシアトレンガヌ州 スルタナ・ヌル・ザヒラフ病院 呼吸器科部長）一行が、京大病院の陳和夫教授ならびに当院の坪井知正副院長に、マスクを用いた非侵襲的人工呼吸（NPPV）を学ぶために来日されました。イスラム圏からの初めての研修受け入れで、食事の心配や礼拝の場所の確保など準備はそれなりに大変でした。研修プログラムは副院長の英語による講義に加えて、NPPVを中心とした病棟見学、禁煙外来、慢性呼吸不全外来、呼吸リハビリテーション、気管支鏡等の見学が行われました。



病棟でのリハビリ研修

ヌーハヤ先生一行は、研修が実質的であったこと、当院職員の対応がフレンドリーであったことにとっても感激されておられました。後日、病院職員一同宛てに、とても丁寧な感謝のメールをいただきました。このたびの研修がマレーシアの呼吸管理技術の向上に少しでも貢献でき、国際貢献の一助になればと願うばかりです。



病院職員との記念撮影

結核研修会を終えて

結核病棟 看護師長 福永 聖子

9月13日に文化パーク城陽で、薬剤師、保健師、看護師、介護職員の方々、合計 97 名にご参加を頂き結核研修会を開催することができました。結核の基礎知識や結核の動向、結核病棟での看護、保健師との連携、結核発症時の対応など、事例を交えながらの講義と、大阪府薬剤師会理事の杉本先生から、大阪市における薬局 DOTS（ドツツ）の取り組みについて、ご紹介いただきました。高齢化が進む結核患者さんの服薬を支えるための薬局 DOTS の重要性は高まっており、多くの示唆を頂きました。参加者からは、「結核についてよく分かった」「長期間にわたる抗結核薬服用の重要性について理解できた」との意見が多く聞かれました。



今後も引き続き、結核を正しく理解し、患者への治療の継続・よりよい生活への支援ができるよう、皆様と共に考えられるような研修会にしていきたいと考えています。

病棟のご紹介

重症心身障害児(者)病棟【西病棟1階】

重症心身障害児(者)病棟 看護師長 清水 三花

日常生活援助や療育を中心とする、重症心身障害児(者)の患者さんのための病棟です。在宅で生活をされている方の短期入所の受け入れも行っています。隣接する支援学校との連携のもと3名の患者さんが通学しています。医療的ケアを必要とする患者さんもおられ、PTやOTと連携を取りながら摂食機能訓練やポジショニング等を積極的に行い肺炎予防に努めています。また、療育指導室と協同しながら日々の療育や遠足、夏季のプール活動等の季節のイベント、患者さんのバンド活動のサポートや外出支援など、個々の患者さんに応じた日中支援活動にも力を入れています。安全・安楽に、その人らしい豊かな生活を送っていただける病棟を目指しています。



看護師・療養介助専門員・保育士・児童指導員など多くの仲間と頑張っています!!



入院患者さんの楽しい笑顔に私たちも思わず笑顔 ♥

交通のご案内



- 近鉄京都線 新田辺から 京阪宇治バス約15分
- JR学研都市線 京田辺から
- JR奈良線 山城青谷から 徒歩20分

*... 各駅より送迎車あり

診療科のご案内

- 内科
- 小児科
- リハビリテーション科
- 呼吸器科
- 外科
- 放射線科
- 神経内科
- 整形外科
- 麻酔科 (入院患者のみ対象)
- 消化器科
- 呼吸器外科
- 歯科 (入院患者のみ対象)
- 循環器科
- 皮膚科
- 耳鼻いんこう科 (休診中)

独立行政法人国立病院機構

南京都病院

〒610-0113 城陽市中芦原11番地
TEL.0774-52-0065 FAX.0774-55-2765
URL <http://mkyoto-hosp.jp/>

地域医療
連携室

- ダイヤルイン 0774-52-0114 (内線231)
- 直通FAX 0774-58-0270
- E-mail renkei@mkyoto.hosp.go.jp